

## 総務企画委員会

視察地 ①山形県<sup>さがえ</sup>寒河江市（8月5日） ②福島県田村市（8月6日）

テーマ ①シティプロモーションの取組について  
②キッチンカー移住チャレンジについて

①寒河江市では、情報発信サイト「さがえ、心地」及び移住定住に関するサイト「SAGAE」を開設し、移住支援や市の魅力等の情報発信を行っている。その中で、「オーダーメイド型移住体験ツアー」を実施しており、オーダーメイド型とすることできめ細やかな対応が可能となっている。また、子供の遊び場や親子等の交流の場として「さくらんぼこどもキャンパス CLAAPIN SAGAE」を整備して交流人口の増を図っており、子育て環境と教育の充実を図ることのできる施設となっている。

②田村市では、移住人材確保事業として令和4年度からキッチンカー移住チャレンジを行っており、市が購入したキッチンカーを無償で貸し出し、開業、運営、移住等を手厚く支援するものである。事業の特色として、キッチンカーを起点とした市農作物をいかした食品の販売やブランドイメージの向上、農家と新たな事業の担い手とのマッチングにより生産から加工・販売まで行う6次産業化を推進し、新規就農者の獲得を目指している。本事業は令和7年度をもって終了予定だが、今後キッチンカーの貸与者に一定の条件を付けてキッチンカーを貸し続けていくこと等を検討している。



視察研修の様子（寒河江市）



視察研修の様子（田村市）

## 経済土木委員会

視察地 ①京都府向日市<sup>むこう</sup>（10月6日） ②京都府木津川市<sup>きづがわ</sup>（10月7日）

テーマ ①復元・体感アプリ「AR長岡宮」によるまちづくりについて  
②地域公共交通ネットワークの再構築について



長岡宮跡にて（向日市）



木津川市議会議場にて

①向日市は、市街地に史跡指定地が広く分布し、第1種低層住居専用地域に多く位置しているため、建物復元には一定の制限があり、さらに復元するためには数百億円単位の経費を要するものであった。そこで、拡張現実（AR）及び仮想空間（VR）技術等を活用し、史跡においてスマートフォンやタブレット端末をかざすことで、古代の都「長岡宮」が目の前にあるかのような体験ができるアプリケーション「AR長岡宮」を開発し、それを無料で配信することにより、史跡長岡宮跡への一層の理解醸成を図っていた。

②木津川市では、持続可能な運行を構築するため、コミュニティバスや予約型乗合タクシーの利用状況をもとに、利用実態に即したサービスが提供されているかの確認を行い、必要に応じてサービスレベルの見直し、あるいは運行の休廃止を行う、「路線再編のためのガイドライン」を策定して、コミュニティバスでは1便当たりの利用者数、予約型乗合タクシーでは1日当たりの利用者数を運行継続条件として定めている。交通事業者だけに頼った公共交通の維持は困難となっている状況を踏まえ、関係者が主体的かつ適切に連携・役割分担を行い、地域公共交通を支える体制や仕組みの構築を通して、持続可能な公共交通の実現を目指していた。



## 福祉文教委員会

視察地 ①神奈川県鎌倉市(10月9日) ②神奈川県小田原市(10月10日)

テーマ ①障害者二千人雇用事業について

②小田原市民病院の経常収支黒字維持について

①鎌倉市では、「誰もがチャレンジできる障害者雇用の推進」として、市が先導して障害者雇用の推進に取り組むこととし、ハローワークとの協同による市内法定雇用率未達成企業に対する個別訪問等の実施、市内在住の精神障害者又は知的障害者を雇用する中小企業等に対して障害者雇用奨励金の支給、さらには、事業者への心理的サポートとして、鎌倉市障害者雇用センターが市内企業を対象に雇用及び定着相談を実施し、個々の状況に応じた情報提供と現場支援を行っていた。これらの事業推進の結果、「二千人雇用」を令和5年11月時点で達成している。

②小田原市では、昭和33年6月に小田原市立病院を開設。かつては医業収益がマイナスであったが、現在では全国の公立病院の中でもトップクラスの医業収益を計上している。収益向上における重点分野については、コンサルタントの意見を参考に事業管理者が決定し、その取組として「断らない救急」や「地域連携による紹介率・逆紹介率の向上」などを実践していた。また、医師確保・定着については、大学医局へのトップセールスや、紹介会社を利用し、病院長と事務部局で認識を共有したうえで取り組んでいるとのことであった。



視察研修の様子(鎌倉市)



視察研修の様子(小田原市)

## 広報委員会

視察地 ①愛知県安<sup>あんじょう</sup>城市(10月20日) ②愛知県岩倉市(10月21日)

テーマ 議会広報紙について



視察研修の様子(安城市)



視察研修の様子(岩倉市)

①安城市議会では、市民にとって親しみやすく、市議会や市政について、より関心を持ってもらえる議会だよりを目指し、公職選挙法改正により18歳以上に選挙権が与えられたことをきっかけとして、市内高校生との共同による取組を実施している。具体的な取組としては、高校生が作成した作品を表紙デザインとして毎号掲載し、裏表紙には、議員と高校生の対談記事を掲載している。また、読みやすさについても工夫しており、従来、縦書き・2色刷りだったものを全面横書き・フルカラーに変更し、イラストやQRコードを使用するなど、より良い議会だよりの作成に向け、取り組んでいた。

②岩倉市議会では、読みやすく、分かりやすい議会だよりの作成に向けて、全国町村議会議長会が主催する「町村議会広報クリニック」を受講するなど、より良い議会だよりの作成に取り組んでいた。また、議会の活動について、より一層、市民に関心を持っていただけるよう、議会が改善を進めた取組については、その改善した結果だけを掲載するのではなく、議会がこういった行動をとり、どのような過程を経て改善がなされたかなど、その経緯についても掲載することで、議会の具体的な取組について分かりやすく伝える工夫をしていた。



# 議会運営委員会

視察地 ①長野県長野市(11月11日) ②東京都墨田区(11月12日)

テーマ ①議会活性化の取組について

②議会改革の取組について

①長野市議会は、議員定数見直しの検討を開始し、令和5年2月に議員提案による定数39人から36人への3人削減条例改正案を可決、同年9月から施行した。人口減少や財政状況、市民理解が削減理由として挙げられる一方、根拠の曖昧さや多様な意見反映の困難さを指摘する声もあった。

また、市議会は市民との意見交換会も継続的に検討。令和5年に目的を「議員を身近に感じ、議会への理解を深める」と再定義した。これに基づき、各常任委員会が出向く形式での「ワールドカフェ方式」導入を決定し、令和6年度には大学生など若者との意見交換を通じて政治参加や投票率向上を図る新たな試みを展開している。

②墨田区議会は令和元年から通年議会を導入した。定例会を通年とし、緊急時対応も可能とすることで、長の専決処分を削減し、突発事態への迅速な対応を実現。これにより執行部との連携が強化され、コロナ禍での「墨田区モデル」にも寄与した。一方、議論の少ない案件でも議会を開くため議員や執行部の負担が増大。効率化のための専決処分活用は実現せず、市民への周知不足や直接的な評価の乏しさも課題となっている。



視察研修の様子（長野市）



視察研修の様子（墨田区）

## 友好都市 岡山県高梁市 親善訪問団来市

10月28日から29日に、友好都市である岡山県高梁市から、市長、正副議長、市議会議員など15名の皆様が本市を訪問されました。

高梁市とは、かつての下館城城主・水谷勝隆を通じた歴史的なつながりがきっかけとなり、友好都市となっています。

訪問された皆様は、水谷家の菩提寺である定林寺を参拝するなど、両市の親睦を深めました。



庁舎1階にてお出迎え



定林寺参拝



協和中学校の生徒の皆さん



下館南中学校の生徒の皆さん



下館中学校の生徒の皆さん



明野五葉学園の生徒の皆さん



関城中学校の生徒の皆さん



下館西中学校の生徒の皆さん

12月12日に「主権者教育」の一環として、市内の中学生60名の皆様が本会議の傍聴と議場見学を行いました。

## 中学生の議会傍聴

